

## ●刈谷市の地区長(自治会長)が視察にみえました

11月17日(火)に愛知県刈谷市の地区長(自治会長を兼務)の皆さん及び刈谷市長など総勢22名の方々が、私たちの会「あきしま・街づくり市民会議・なかがみ」を視察されました。

きっかけとなったのは、刈谷市の地区長の皆さんが本会のホームページを発見し、東京都の防災隣組に認定されている防災活動ほか、地域課題に即したさまざまな活動に取り組む姿勢に強く関心を抱いたということです。現在、刈谷市においても、新たなコミュニティ活動に取り組みは始めている段階であり、本会の活動を参考にしたいとの思いで、視察においていただくことになりました。



▲刈谷市の皆さんとの交流会

刈谷市では23の地区にそれぞれ自治会が設置され、地区長が選出されて防災などの地域活動に取り組まれているそうです。

当日は、本会及び刈谷市からの挨拶、参加者の自己紹介の後、はじめに本会の事業概要として設立経緯や運営形態、各部会の紹介と主な活動、課題などについて説明し、続いて刈谷市から事前にいただいてあった質問事項に答えるといった内容で進めました。進め方の印象として、一方的に本会の活動状況を説明した形となり、お互いに意見交換をする交流の時間が少なかったのですが、最後に刈谷市の竹中市長からご挨拶と感謝のお言葉をいただき、閉会しました。

(あきしま街づくり市民会議 会長 / 北村 実)



▲数多くの質問に答える、北村会長

## ●「地域防災学習交流会」開催

市民会議・なかがみ・防犯防災部会(部長/原則行)は、11月7日(土)、中神自治会館で、防災学習交流会を開催した。大震災を経験したり、震災後の支援活動を経験した方から、その体験談を聞き、震災時の現地での様子、被災者の心情、被災者に寄り添った支援活動などを学ぶ。

講師の鈴木幸一さんは、「たい焼き」器を背負って被災地に駆けつけ、温かいたい焼きを提供することで、落ち込んだ被災者に元気を与えたと語る。家庭内での防災対策、地域(自治会)での防災対策は、日頃から学習・実践する事が大切。被災地では盗難事故も多く、本会のようにユニフォームを揃って着用していることは不審者も近寄りにくく、防犯対策上大変役立つと市民会議のグリーンジャンパーについて称賛された。国や都は、住民の人命・財産を守るために、最大限の努力はしてくれるが、「自分の家族は自分で守る」「自分たちの街は皆で守る」という決意が大切と結んだ。

大勢の人に聞いてもらいたい学習会であった。参加者35名

(防犯防災部会/原則行 取材/広報部会)



▲講師の鈴木 幸一さん



▲熱心に受講される皆さん